

下部尿路機能障害を伴った 2型糖尿病患者の症例報告

市原 浩司¹⁾²⁾

Koji Ichihara

舩森 直哉²⁾

Naoya Masumori

札幌中央病院泌尿器科¹⁾札幌医科大学医学部泌尿器科学講座²⁾

はじめに

糖尿病によって引き起こされる下部尿路機能障害 (lower urinary tract dysfunction; LUTD) は糖尿病患者の約80%に認めるともいわれるが、無症候性の場

合も多い。糖尿病患者の下部尿路症状(LUT symptoms; LUTS)は多彩で経時的に変化する。本稿では2型糖尿病患者に合併したLUTDの事例を2つ提示し、概説する。

症例1

患者背景

【年齢】 71歳

【性別】 男性

【主訴】 夜間頻尿, 尿意切迫感

【既往歴】 なし

【生活歴】 飲酒: 毎日

喫煙: 20本/日×35年間

【家族歴】 父と弟が前立腺癌, 娘が糖尿病

【現病歴】 5~6年前から夜間の尿回数が多いことや尿意切迫感を自覚していた。親族が前立腺癌であり自身もその可能性を心配して、泌尿器科を受診した。

【検査所見】

尿定性: 尿潜血1+, 尿蛋白2+, 尿糖4+,

尿沈渣: 赤血球5~9個/強視野, 白血球1~4個/強視野

血清PSA値: 2.01 ng/mL

直腸診: クルミ大で硬結なし

腎臓超音波: 水腎症や腫瘤は認めず

経直腸の前立腺超音波: 総体積25.64 mL, 前立腺癌の存在を示唆する低エコー所見なし

膀胱内視鏡: 明らかな出血点は認めず両側尿管口からの尿流出は良好で血尿認めず

経過

泌尿器科経過①

追加検査として尿細胞診を提出した。LUTSへの対応はこの結果を踏まえて行うこととした。同時に尿糖強陽性に関して糖尿病内分泌内科へコンサルトした。

泌尿器科経過②(初診から1週後)

尿細胞診: 陰性

国際前立腺症状スコア(IPSS): 4点(夜間排尿スコア